

FOMCは高金利政策の長期化を示唆する内容



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① FOMCは高金利政策の長期化を示唆

FRB（米連邦準備制度理事会）は19～20日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利を2会合ぶりに据え置きました。同時に発表した参加者による経済見通しでは、FOMC参加者19人中12人が年内あと1回の利上げを支持していることが示され、その後もインフレ鎮静化に向け高金利政策を維持する姿勢が示されました。実際、前回見通しでは1%とみていた24年中の利下げ幅は今回見通しでは0.5%に縮小した形です（右上図）。

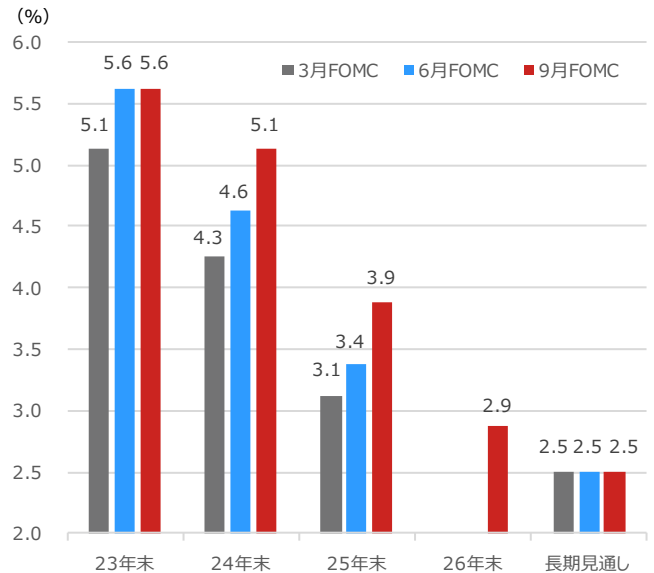
会合後に記者会見をしたパウエル議長は、今後もデータをみながら判断する姿勢を示しつつも「適切であればさらに利上げする用意があり、インフレが我々の目標に向かって持続的に低下していると確信が持てるまで政策金利を景気抑制的な水準に維持する考えだ」と述べました。

ポイント② 適温経済の継続は金融市場の支えに

今回のFOMCの内容は従来よりも高金利政策の長期化を示唆するタカ派的な内容だったこともあり、20日の米金融市場では、米国債利回りが上昇（価格は下落）し、ハイテク株の下げが目立ちました。

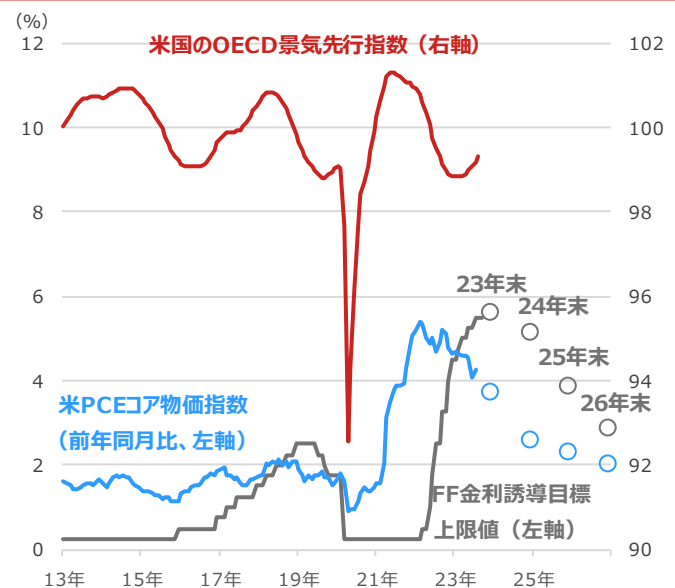
ただ、今回のFOMCで今後の米経済について明るい兆しが示されたことは支援材料です。FRBが示した最新の経済見通しでは10-12月期の実質GDP（国内総生産）成長率について23年が2.1%、24年が1.5%と前回見通し（1.0%、1.1%）から上方修正されました。また、10-12月期の米PCE（個人消費支出）コア物価指数も鈍化基調を辿り26年には2%の物価目標を達成する見通しです（右下図）。緩やかな「インフレ鈍化」と「経済成長」が併存する「適温経済」が続くとみられることは、米金融市場の先行きを見る上でサポート材料といえそうです。

FOMC参加者金利見通し（中央値）の3時点比較



期間：2023年末～2026年末、年次、および長期見通し
 ・FOMC参加者金利見通しは2023年3月FOMC、6月FOMC、9月FOMCで示された目標レンジ中央値
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米国のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数・FF金利誘導目標上限値・米PCEコア物価指数



期間：（米国のOECD景気先行指数）2013年1月～2023年8月、月次
 （FF金利誘導目標上限値）2013年1月末～2023年9月20日、月次
 （米PCEコア物価指数）2013年1月～2023年7月、月次

・FF金利はフェデラルファンド金利
 ・○印は9月FOMCで示された23年末～26年末のFOMC参加者予想中央値（米PCEコア物価指数は10-12月期の前年同期比）
 （出所）BloombergおよびFRBより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。